

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271402374
法人名	有限会社 アプリーレ
事業所名	グループホームあさひが森
訪問調査日	平成21年2月24日
評価確定日	平成21年5月1日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402374
法人名	有限会社 アプリーレ
事業所名	グループホームあさひが森
所在地 (電話番号)	長崎県南島原市布津町甲489番地 (電 話) 0957-72-3592

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価結果報告日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(平成21年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 18 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 10.2 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造 平屋造り	
	1 階建ての 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 円	
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.5 歳	最低 66 歳	最高 104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院、池田病院、前川歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、設立して30年を経た同系列の保育所の園児たちと接する地域の高齢者に対し、高齢となり介護が必要となっても暮らしやすいホームを建設することを思い立ち、現在のホームを造っている。自分が入りたいと望むようなホームづくりを理想として日々のケアにあたっており、園児との交流も日常的に行われ、アットホームで暖かい環境でゆったりと憩える雰囲気があるホームである。また、職員は常に利用者本位の視点で、利用者の意向や希望を大切にすることを念頭に、介護計画作成にあたっては、3ヶ月に1回の評価を毎月することによって、タイムリーな状態把握ができ、より細やかな支援ができるよう計画の見直しに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の後、全員に評価結果を見てもらい、会議の中で改善点を検討し合い、少しでも質の高いケアが展開できるよう取り組む姿勢が見られる。共用空間に設置されていたポータブルトイレは除去され、トイレ内での排泄を実施するよう配慮されており、地域との交流も積極的に行えるよう、年間の行事計画に取り込まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 昨年の自己評価に対し、今年度評価に変更ある箇所のチェックを各々のユニットで行った。Aユニットでは、評価項目を職員全員で分担し、各々が担当箇所をチェック。Bユニットでは全員で自己評価項目全体の見直しを図った。職員から出されたチェックにより、管理者がとりまとめた。昨年は管理者一人が自己評価を行っており、全体の理解に達していなかったが、今回は全員で取り組もうとする姿勢がみられる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は2ヶ月に1回の定期開催が実施され、利用者の生活状況の報告や行事の報告・紹介、様々な取り組みの報告を行い、都度、運営委員からの意見や助言を求め、サービスの向上に活かそうとする姿勢が窺われる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 写真を多用したアットホームな手作りの便りを毎月作成し、一人ひとりの健康状態やホーム内での様子と一緒に家族に送付している。また、家族のホーム訪問時にはお茶を出す等して、気軽に会話する機会を設け、家族からの意見を聴き、運営に反映できるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 今年度ホーム開設「7周年の集い」を開催し、地域の老人会の方たち等を招待して実施した。また、地域包括支援センターの音頭とりで実施されている「介護予防ボランティア」に参加している職員がおり、そのメンバーとの交流もしている。徐々にではあるが、地域交流の輪を広げてきている。

社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	長年にわたる幼児の保育を通して、高齢者へも暖かい地域づくり、ホームづくりを念頭にグループホームあさひが森が生まれた。「あさひが森では、あなたの家庭と同じようになごやかでいきいきとした毎日を」を理念に掲げ、家族同様、一人ひとりが暮らしてきた地域の中で、その人らしい生活が営めるよう支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議の折に、必ず全員で理念を唱和し確認している。日々の生活の中では、個別ケアを念頭に利用者を急がせず、本人のペースで生活できるように支援に努め、常に笑顔で接するよう職員一人ひとりが心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度の「7周年の集い」には地域の老人会を招待して開催した。また、地域包括支援センターが音頭をとっている「介護ボランティア」に参加している職員もおり、介護ボランティアとの交流も持っている。地域交流に関する行事等を年間計画に取り入れ、今後も地域と積極的に関わろうとする姿勢が窺われる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全員で検討し、変更箇所を抽出し今回の評価を行った。また、前回の改善点を全員で協議し、改善計画の一覧表にまとめ、改善するよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期開催されており、利用者の状況報告や行事やさまざまな報告を行っている。委員からも積極的な意見や要望を求め、サービスの向上につなげるよう努めている。会議に欠席の委員へも報告が伝わるよう、必ずホーム便りや議事録を送付し、認知してもらえるよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には市との関わりは少ないが、地域包括支援センターが音頭をとって活動している介護ボランティアには任意ではあるが、メンバー登録している職員がおり、地域との交流の橋渡し役となっている。	○	ささいな問題や疑問点、困っている点等、積極的に市に相談を持ちかけ、共にサービスの向上に取り組んでいけるよう今後に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を多用したアットホームな手作りのホーム便りを毎月作成し、近況報告や健康状態等と一緒に毎月家族に送付している。体調の変化やいつもと違う状況があった場合はその都度、電話により報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族の訪問時には、お茶を勧め、気軽に会話できるような機会を設けて、職員から利用者の様子等日常の暮らしぶりを家族等に伝えることによって、意見等を言いやすい雰囲気をつくり出すように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常的にユニット間の行き来はあり、職員は両ユニットの利用者とも顔馴染みの関係になっている。また、職員の交替時には利用者のダメージを防ぐ為に、職員の中から利用者にとって一番安心できる職員が対応する配慮ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修参加は積極的に奨励し、研修の機会を提供している。また、研修参加後は、職員会議等で報告会を行い、情報の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会での交流や研修参加を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。グループホームケア研究会の研修には毎回数名が参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケースによっては何日か通所してもらったり、過去には体験入居してもらったりしたこともある。個々のケースに応じた馴染みながらのサービスの利用を工夫しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	華道の心得のある利用者に食堂の花を活けてもらったり、畑仕事時の水遣りやゴミ入れの袋作り等々、役割や生きがいを大切にして支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのペースを大切にしたい個別ケアに取り組んでおり、意向を伝えられない利用者に対しても、日々の生活状況や過去の生活歴から本人の思いを把握できるよう努め、本人本位のケアの実践に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員を決め、年間を通して細やかな介護計画となるように支援している。3ヶ月に1回であった評価を毎月1回見直すことにより、より現状に即した新たな計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月評価することにしたので、タイムリーに状態を把握することができ、次に向けての計画の見直し等が立てやすくなり、より細やかな支援がタイムリーにできるよう配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は必要に応じてホーム側で対応している。散歩がてら近くの理美容院へ連れて行ったり、来てもらったりしている。欲しい買物があれば連れて行くなど、個別に柔軟な対応を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医へは継続して受診できるよう必要な支援をしている。例えば、月1回隣町の病院に通院したり、町内の医院が往診してくれたりしている。また、町内の看護師も週1回来て利用者の健康状態を診てくれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望があれば終末期の看取りも考えてはいるが、看護師の体制が不十分であり、職員の不安感も皆無ではないため、現状では行っていない。家族やかかりつけ医、職員全員での現段階での方針は共有できている。	○	終末期のケアについては、今後さらなる検討を重ねられ、より良い看取りの方向を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の外部評価後、プライバシーについての話し合いを持ち、職員の視点ではなく、第三者の視点で捉える大切さを学び心がけて実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりと、その人らしいペースを大切にしようと努めながらも、朝の掃除の時間など、時間に追われて忙しい時など、「ちょっと待って」の言葉がつい出てしまうことが時々ある。	○	「ちょっと待って」等のことばを不用意に遣うことなく、常に利用者本位の目線を心がけてケアにあたれるよう、ますます努められることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回程度は、利用者得意の饅頭作りや漬物作りをしたり、畑からブロッコリーを収穫して一緒に楽しく食べたり、寒い季節には干し柿作りを楽しんだりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として曜日を決めているが、2ユニットの入浴の曜日を交互にしていることにより、希望すればいつでも入浴できる体制はできている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞紙を使つてのゴミ袋作り、広告紙での袋作り、洗濯物たたみなどできることは楽しんで行えるよう支援している。また、ちぎり絵や風船バレーも楽しみごとになっている。訪問時、食卓にホームの庭に咲いている野花を摘んで花瓶にさりげなく飾られ、季節感が醸し出されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化による心身機能の低下が進行し、外出の後には疲れる利用者も多いため、外出を職員が躊躇してしまうことが多い。門前に東屋があり、その周りに芝生の庭が広がっているので、時々行ける利用者だけ、そこまで散歩に出る程度になっている。	○	今後は、個々の体調や状況に合わせて、少人数や個別の外出が、ドライブも含めいろいろな方法でできるように計画されることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており、施錠をしない代わりに、玄関にアラームをつけたこともあったが、現在は重度化に伴う機能低下により、動き回る利用者もいなくなり、アラームの必要性もなくなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎年2回実施し、夜間想定訓練も行っている。地元の自治会には運営者や職員も加入しており、災害時の協力を依頼している。消防計画も作っており、設備点検も実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近所の栄養士に献立を依頼しており、食事の摂取状況も確認できている。水分摂取量が不足気味の利用者には、お茶ゼリーを供して補えるよう工夫している。人によっては、居室にペットボトルを置いて水分補給の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前年度は共用空間の一部を一人の利用者の身体状態によって、その利用者の私的空間に供していた部分を改善し、広々とした居心地のよい共用空間づくりを心がけるよう努めている。廊下には間接照明が施され、ちぎり絵や職員が書いた詩が飾られていたりしてさまざまな工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や家族写真、テレビなど、一人ひとりの馴染みの物品を自由に持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせる居室の配慮をしている。		